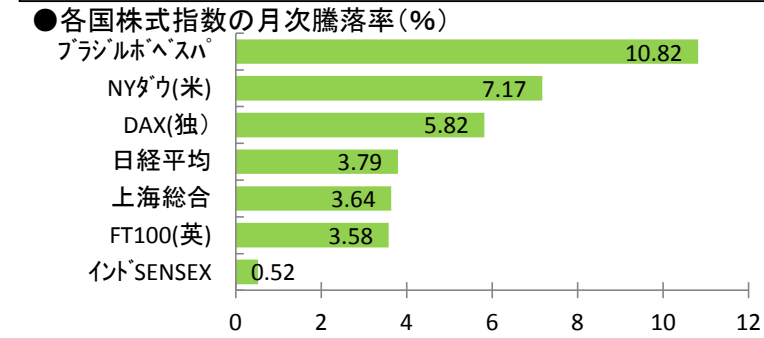


# MONTHLY MARKET VIEW (2019年2月号)

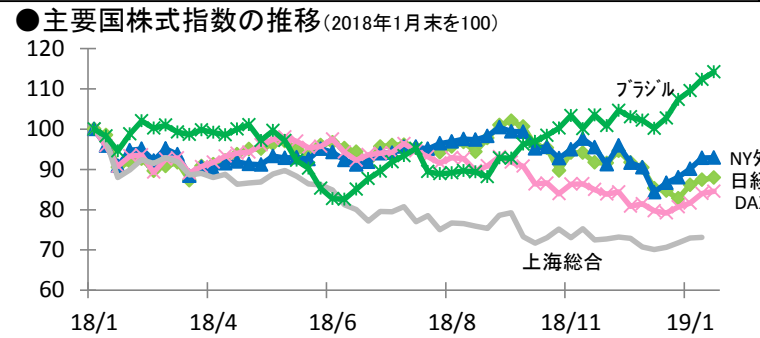
## ○金融市場の動向 (1月中)

### 1. 株式市場

主要国株式相場は上昇。米国株式相場は、前月に大幅下落した反動やFRB(米連邦準備理事会)の追加利上げ観測の後退を受けて、買戻しが優勢となった。また、米政府機関閉鎖の解除や米中貿易協議の進展期待も相場上昇を支えた。国内株式相場は、米国株式相場の上昇を受けて買いが優勢となったが、月末には国内企業の決算発表を前に利益確定売りが入り、上昇幅を縮小した。



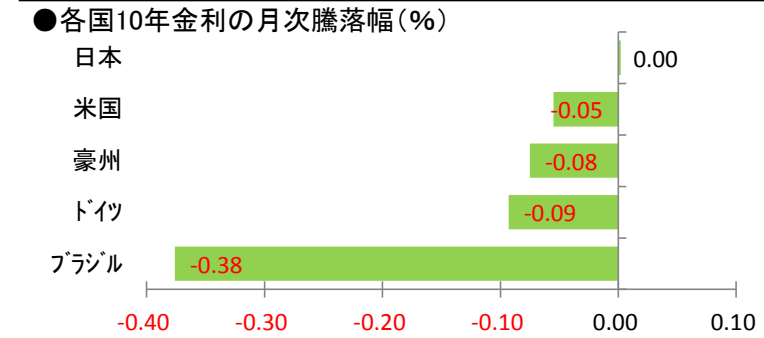
ブラジル株式相場は上昇。年初にボルソナロ新大統領が就任し、年金改革案や財政再建に対する期待が高まったことに加え、原油相場の上昇を背景にエネルギー関連株に買いが入った。



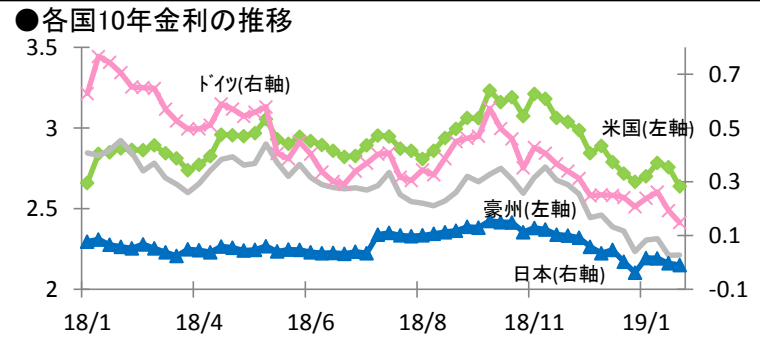
中国株式相場は上昇。中央銀行による預金準備率引き下げや政府による景気刺激策の発表を受けて買いが優勢となった。また、米中貿易協議の進展期待も相場上昇を支えた。

### 2. 債券市場

主要国金利は低下。米国債券相場は、年始の市場参加者が少ないなかで低調な米ISM製造業景況指数の結果を受け、債券買いが先行した。その後は、米中貿易協議の進展期待から債券売りが入る場面が見られたものの、後半半にかけてはFRBの追加利上げ観測の後退を受けて債券買いが優勢となり、米国金利は低下する展開となった。



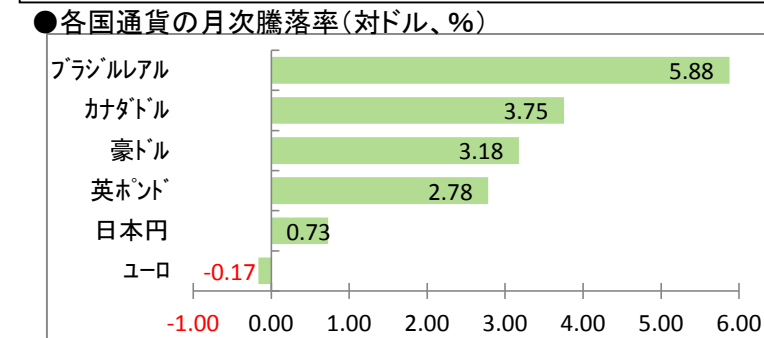
国内金利はほぼ横ばい。年初には、年末に金利が急低下した反動から債券売りが先行した。その後は、国債入札を順調に消化し、良好な需給環境が確認されるなかで値を戻す展開となった。



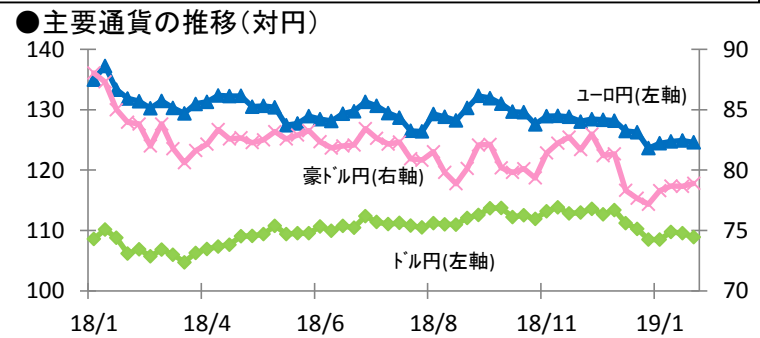
ドイツ金利は低下。ドラギECB(欧州中央銀行)総裁が景気見通しに慎重な姿勢を示したことや、市場予想を下回る経済指標が相次いだことから債券買いが優勢となった。

### 3. 為替市場

外国為替相場は円が上昇。年初には市場参加者が少ないなか、世界景気の減速懸念からドル/円相場は一時1ドル104円台後半まで円高ドル安が進行した。その後は、パウエルFRB議長の発言等により追加利上げ観測が後退し、米国株式相場が堅調に推移したことや、米中貿易協議の進展期待から円売りドル買いが入り、円は上昇幅を縮小する展開となった。



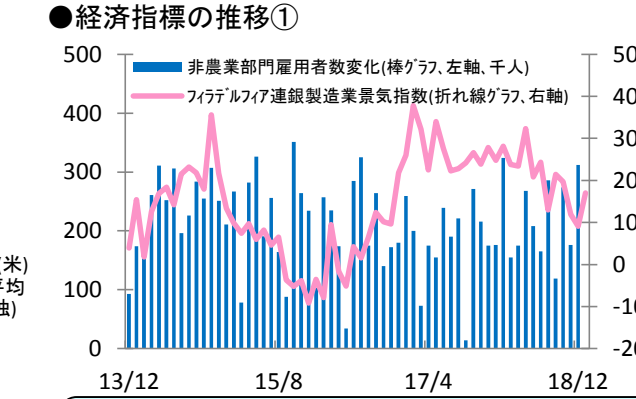
ブラジルレアルは上昇。年初にボルソナロ新大統領が就任し、新政権による国営企業民営化や、年金改革推進への期待からブラジルレアルが買われる展開となった。



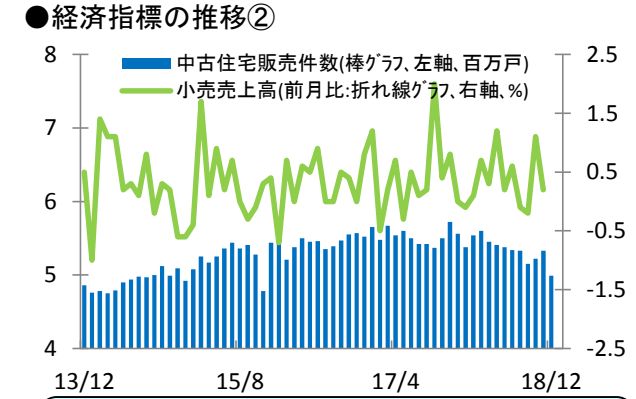
円相場は対ドル、対ユーロで上昇。年初に円高が進行したが、その後反動から円は売り戻され上昇幅を縮小した。豪ドルは中国景気減速への過度な懸念が後退し、円売り豪ドル買いが優勢となった。

## ○マクロ経済の動向 (1月中)

### 1. 米国経済

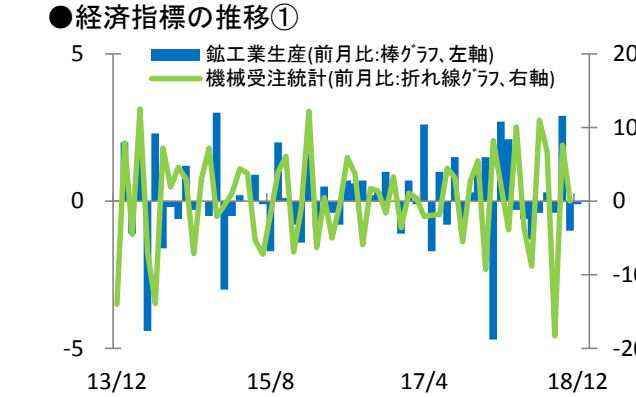


雇用者数は前月比+31.2万人と市場予想(+18.4万人)を上回った。失業率は3.9%と前月から悪化したが、依然低水準であり、堅調な雇用環境を示した。

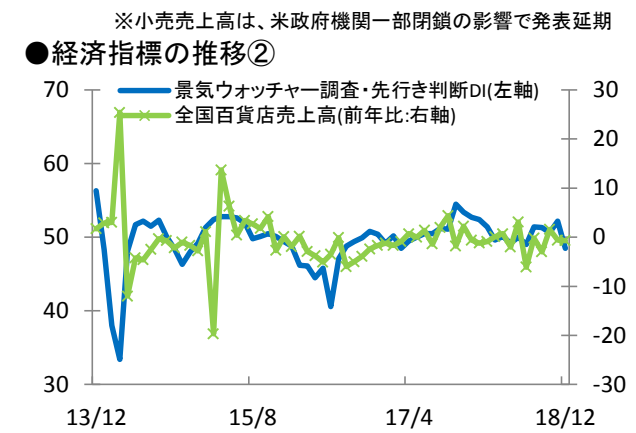


中古住宅販売件数は499万件(市場予想524万件)と約3年ぶりの低水準となり、住宅市場の減速を示唆する結果となった。

### 2. 日本経済



中国経済減速等の影響で鉱工業生産は前月比▲0.1%(市場予想▲0.5%)と低下。機械受注は前月比+0.0%(市場予想+3.0%)と市場予想を下回った。



先行き判断DIは、前月比▲3.7ptの48.5と市場予想(51.4)を下回り、景気判断の分かれ目となる50を下回った。

## ○金融市場の見通し

### 1. 株式市場

国内株式相場は、国内企業業績の先行きに懸念は残るものの、米国株式相場の上昇を背景に投資家心理が改善しており、堅調に推移するとの見方が多い。また、米中貿易協議に対する進展期待も引き続き相場を下支えすると見込まれている。  
米国株式相場は、これまで上昇した反動から利益確定の売りが入る可能性もあるが、追加利上げ観測の後退や米中貿易協議の進展期待から、引き続き堅調に推移するとの見方が多い。

### 2. 債券市場

国内金利は、米国の追加利上げ観測の後退や欧州景気の減速懸念が意識され、金利低下基調が継続するとの見方が多い。ただし、高値警戒感が上値を抑える要因となり、低下幅は限定的なものになると見込まれる。  
米国金利は、FRBの追加利上げ観測の後退や米政権の政策運営に対する不透明感が、金利低下圧力になるとの見方が多い。ただし、追加利上げ観測の後退を背景に投資家のリスク選好姿勢が強まり、米国株式相場が堅調に推移すれば米国金利は上昇する可能性もある。

### 3. 為替市場

ドル/円相場は、米中貿易協議に対する進展期待に加え、米国の追加利上げ観測の後退を背景とした米国株式相場の堅調推移が、ドルを下支えするとの見方が多い。一方で、追加利上げ観測の後退による米国金利の低下や米政権運営に対する先行き不透明感が、ドルの上値を抑える可能性もある。

※本資料は各種データに基づき参考資料として作成しておりますが、その正確性・確実性を保証するものではありません。ここに記載された意見等が事前の連絡なしに変更されることもあります。したがってこれらコメントに全面的に依存して市場性商品の取引導入を決定することはお勧めできません。また本資料は情報提供を目的とし、商品の売買勧誘や申し出を意図したものではありません。